

B年復活日 マルコ16章 1―8節

〔直訳〕

- 1 そして 過ぎて 安息日が  
マグダラのマリアとヤコブの母マリアとサロメが 買った 香料を  
ようにと 来て 彼女たちが塗る 彼に。
- 2 そして 非常に 早く 週の最初に  
彼女たちは来る 墓に 昇って 太陽が。
- 3 そして 彼女たちは言っていた 彼女たち自身に向けて、  
「誰が 転がすだろう 私たちのために 石を 墓の入口から。」
- 4 そして 見上げて 彼女たちは観る 次のことを  
転がされていた 石が。  
なぜならそれはあった 大きく 非常に。
- 5 そして 入って 墓の中に  
彼女たちは見た 若者が 座っているのを 右に  
まどつているのを 白い長い衣を、  
そして 彼女たちはひどく驚いた。

6 だが彼は 言う 彼女たちに、  
「ひどく驚いているのをやめなさい。  
イエスを あなたたちは捜している ナザレ人を 十字架につけられた方を。

彼は起こされた、  
彼はいない ここに。

見よ 場所が ところの 彼らが置いた 彼を。  
7 しかし 行きなさい 言いなさい 彼の弟子たちとペトロに 次のことを  
彼はあなたたちの先に行く ガリラヤに。  
そこで 彼を あなたたちは見るだろう、  
とおりに 彼が言った あなたたちに。」

8 そして 出て行って 彼女たちは逃げた 墓から、  
なぜなら持っていた 彼女たちを 震えと動転は。  
そして 誰にも 何も 彼女たちは言わなかった。  
なぜなら彼女たちは恐れていた。

〔新共同訳〕

- 1 安息日が終わると、マグダラのマリア、ヤコブの母マリア、サロメは、イエスに油を塗りに  
行くために香料を買った。2 そして、週の初めの日の朝ごく早く、日が出るとすぐ墓に行った。
- 3 彼女たちは、「だれが墓の入り口からあの石を転がしてくれるでしょうか」と話し合っていた。
- 4 ところが、目を上げて見ると、石は既にわきへ転がしてあった。石は非常に大きかったので

ある。5 墓の中に入ると、白い長い衣を着た若者が右手に座っているのが見えたので、婦人たちはひどく驚いた。6 若者は言った。「驚くことはない。あなたがたは十字架につけられたナザレのイエスを捜しているが、あの方は復活なさって、ここにはおられない。御覧なさい。お納めした場所である。7 さあ、行って、弟子たちとペトロに告げなさい。『あの方は、あなたがたより先にガリラヤへ行かれる。かねて言われたとおり、そこでお目にかかれる』と。」8 婦人たちは墓を出て逃げ去った。震え上がり、正気を失っていた。そして、だれにも何も言わなかった。恐ろしかったからである。

### ①文脈

① 午前九時に十字架につけられたイエスは、通り掛かった人々にも、一緒に十字架につけられた強盗にも侮辱される（一五21―32）。昼の十二時になると、全地が暗くなり、三時にイエスは大声で、「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」と叫ぶ。そばに立っていた人が、海綿に酸いぶどう酒を含ませて葦の棒に付け、「エリヤが来るかどうか、見ていよう」とからかいながら、イエスに飲ませようとする。

② イエスが大声を上げて息を引き取ると、神殿の垂れ幕が上から下まで真つ二つに裂け、そばに立っていた百人隊長は、「本当に、この人は神の子だった」と告白する。女性たちも遠くからこの様子を見ている（一五33―41）。イエスの遺体は議員の一人ヨセフの願いによって、彼に引き渡され、墓に葬られる（一五42―47）。

③ 翌朝、マリアたちが墓に行くと、白い衣の若者が現れ、「イエスは復活した」と告げる（一六1―8）。16章9節以下は古い有力な写本にないので、後の付加ではないかと言われている。

### ②構成

#### ①全体の構成

① 1―5節と8節に使われた接続詞は、傍線で示したようにほとんどが「そして」である。5節の終わりには1―5節を締めくくるように「彼女たちはひどく驚いた」が置かれている。それに対して、6節の冒頭には「だが」、7節の冒頭には「しかし」が置かれ、6節の若者の言葉は「ひどく驚いているのをやめなさい」で始まっている。1―5節は女性たちの驚きを描き、6―7節では驚くにはあたらぬ理由を若者が告げる。

② 1―5節と8節は「墓」という語で対応している。1―5節では女性たちは「墓に」来て、「墓の中に」入るが、8節では「墓から」逃げる。彼女たちの行動（方向）を変えたのは6―7節の若者の言葉であり、そこに焦点が置かれる。

③ 1―5節  
4節を新共同訳は「ところが、目を上げて見ると、石は既にわきへ転がしてあった」と訳しており、直訳の「そして」を「ところが」の意味にとっている。この場合、大きな石が転がされていたことに注意が向かうが、ここには女性たちの反応は描かれていない。彼女たちは「若者」が右手に座っているのを見て、驚く。

#### ④ 6―7節

若者の言葉は、直訳から分かるように、説明的な要素を持たない短文が重ねられている。説明的な要素を切り捨てることによって、事実の持っている重みを表現しようとしている。7節の「先

に行く」は時間的な意味にとれば、弟子たちよりも「早くガリラヤに行く」の意味だが、空間的な意味にとれば、「弟子たちが歩く前に行く」の意味になる。いずれにしても、先に行くイエスに従うとき、イエスを見ることになる（動詞は未来形）と弟子に教えている。これはイエスの道を進むようにとの招きである。

④ 8節

イエスに会うことのできる場合は「墓」であると考えていた女性たちは、「墓から」逃げ出す。一行目では女性たちの行動（逃げた）を述べ、二行目はその理由（震えと動転）を述べる。同様に、三行目に女性たちの行動（言わなかった）、四行目にその理由（恐れていた）が述べられている。同じ構文が繰り返されることによって女性たちを襲った「震えと動転」そして「恐れ」がいかに強いものであったかが示されている。

③ 驚く女性たち（1―5節）

① 日没をもって安息日が終わると、その夜のうちに香油を買い求めた女性たちは、翌朝、日の出を待ってイエスの遺体に香油を塗るために墓へと向かう。このような行動が示しているのは、最後までイエスに仕えようとする女性たちの深い愛情である。

② 彼女たちは墓へと向かいながら、墓の入り口をふさぐ石を誰が転がしてくれるだろうと語り合う。しかし目を上げて見ると、その石は「転がされていた」。受動態の表現によって、神が働いたことが暗示されている。しかし、まだ彼女たちが驚いたとは書かれていない。

③ 墓に入ると若者が座っている。この若者は神の使いであるだろうが、マルコは「白い」衣を着ていたと書くことでそれを暗示するだけである。1―5節は「そして」という接続詞でつながれ、その描写も控えめである。マルコの関心は、目を見張るような奇跡的な出来事を描くことにはなく、むしろ復活を通して明らかになるイエスと人間との関わりを描き出すことにある。

④ この若者を見たときに初めて、女性たちが「ひどく驚いた」と述べられる。「ひどく驚いた」という動詞は1―5節を要約する言葉である。人間にとって復活とは、第一に「ひどく驚く」不可解な出来事なのである。この「驚き」は、復活という理解しにくい出来事が何を求めているか、という問題提起でもある。

④ 先に立つイエス（6―7節）

① 「だが」という逆説の接続詞が初めて用いられ、この出来事をどう捉えるべきかが語られる。「ひどく驚いた」女性たちに対して、若者は「ひどく驚いているのをやめなさい」と命じる。この若者の言葉は、この出来事は決して不可思議なものではなく、意味のあることなのだという論しである。

② 「イエスをあなたたちは捜している」と若者は告げるが、この「イエスを」を説明して「ナザレ人を 十字架につけられた方を」という言葉を加えている。「ナザレ人」には「田舎者」といった意味合いがあり、さらに「十字架」は軽蔑の対象である。しかし、軽蔑すべき名をイエスに使うことによって、女性たちのイエスへの愛情がかえって強調される。

③ 女性たちは、イエスを墓の中に「捜している」。しかし、イエスは「ここにいない」。その二つの記述の間に「彼は起こされた」というただ一語が置かれている。「起こされた」は復活を意味するが、この受動態も神が介入したことを暗示する。死んで葬られたはずの現実が、神の介入によってまったく変えられる。ただし、マルコはイエスがどのようにして復活したのか、その過程に

は一言も触れない。それは復活が神と人間との関わりを指し示す出来事であって、その出来事の向こうに人間と関わる神を見なければ意味のない出来事だからである。

- ④ 7節では「しかし」という言葉が始まって、復活に触れた者はどうすべきなのか語られる。若者は女性たちに弟子たちへの伝言を託すが、弟子たちの中でペトロだけが名指しされている。このことは、14章 66節以下のペトロの否認と関係している。ガリラヤに先に行ったイエスは、自分を知らないと言ったペトロをそこで待っている。「ペトロ」と名指されたのは、裏切った弟子たちとの関わりを断つどころか、なおも彼らとの関わりを求めるイエスの姿を示すためである。
- ⑤ この弟子たちへの伝言には、三つの動詞が使われている。「彼は先に行く」は現在、「あなたたちは見るだろう」は未来、「彼が言った」は過去の時制である。「彼が言った」とは14章 28節でイエスが語った約束、「わたしは復活した後、あなたがたより先にガリラヤへ行く」を示している。「彼は先に行く」とはその約束通りにガリラヤへと先立つイエスの行動を示す。イエスの約束（過去）と行動（現在）、その両者に支えられて、「あなたがたは見るだろう」という未来が開かれてゆく。

### ⑤ 彼女たちは恐れていた（8節）

- ① 女性たちが墓から逃げたのは、「震えと動転」が彼女たちを襲ったからである。「イエスは起こされた」という若者の言葉は、彼女たちが思いつくことのなかった現実を示している。死者は墓の中にあり、死者との関わりを大切にするために彼女たちは墓へと向かったが、彼女たちが捜しているイエスは墓にはいない。人の考えの及ばない事態が神によって引き起こされた。神の介入を知らされた女性たちは震え、動転する。
- ② 若者は女性たちに「行きなさい、言いなさい」と命じる。イエスと会うことのできる場所は墓ではなく、イエスが先立つて行くガリラヤである。しかし彼女たちは「誰にも何も言わなかった」。その理由をマルコは「恐れていたから」と述べている。イエスの復活を知らされた者が喜ぶ姿ではなく、「恐れる」と描写することによって、イエスの復活が神の起こした救いの業であることを強調している。

### ⑥ 未来に向けて歩み出す

- ① 若者は驚く女性たちに「ひどく驚いているのをやめなさい」と命じ、復活の出来事を告げると同時に、この出来事が何を求めているかを告げる。「あなたたちは見るだろう」とは、イエスの単なる再会ではない。弟子たちが裏切ったにもかかわらず、その弟子たちとの関わりを決して断つことのない、イエスの愛が表される再会である。裏切っても決して見捨てず、立ち帰るのを待つイエスの姿を知るときに、「あなたがたは見るだろう」という未来に向けて歩み出すことができる。イエスの復活とは、墓が空であったという事実に尽きるものではない。復活の出来事の向こうには、裏切った者をも受け入れるイエスが立っている。
- ② 「墓はイエスのいる場ではない。イエスは復活のいのちを生きている」と若者は告げる。イエスの遺体がないという事実と、そのことの意味を知らされた女性たちは狼狽し、恐れる。イエスの復活はこの世の命に戻ることではなく、神が与える新しいいのちを生きることである。復活は神が与える救いの業であるから、それを知るためには、まずは人の理解は崩されなければならない。「震え、動転し、恐れ」るとき、人の思いをはるかに超える神の思いによって、人は生きる方向を変えられていく。